

## 会 議 記 録

高松市付属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成25年度高松第一高等学校改築基本構想検討懇話会（第3回）
開催日時	平成25年11月20日（水） 16時00分～17時30分
開催場所	高松第一高等学校 2階大会議室
議 題	(1) 先進校視察報告 (2) 改築基本構想素案について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	菅委員，白石委員，竹内委員，多田野委員，橋本委員，福田委員，松本委員
傍聴者	2人    (定員 5人)
担当課および 連絡先	高松第一高等学校 861-0244

### 会議の経過および結果

#### (1) 先進校視察報告

事務局    先進校（京都市立堀川高等学校，大阪市立咲くやこの花高等学校）の視察状況について説明

〇〇委員    咲くやこの花高等学校の施設面積等の詳細資料はないか。施設全体の中で演劇関係施設が占める割合を知りたい。

事務局    各部屋面積等の資料はないが，施設全体の平面図がある。（平面図を基に説明）

〇〇委員    視察の際，咲くやこの花高の演劇関係施設はかなり広いという印象を受けたが，一高に同規模の施設を取り入れることができるのか。

事務局    校舎の高層化の程度にもよるが可能だと思う。ただし，同規模となると，その分普通科の面積に影響が及ぶ可能性はある。

事務局    普通教室で換算すると，概ね，舞台室が4教室分，大道具室が3教室分，演技実習室が3教室分以上の計10教室分以上必要になり，普通科1学年分に相当する。

〇〇委員    一高の敷地の建築制限はどうなっているのか。

事務局    用途地域は第一種中高層住居専用地域に該当するが，絶対高さ制限はなしとなっている。ただし，極端に高層化した場合は，日照権の問題が発生する可能性がある。

〇〇委員 咲くやこの花高の演劇科では定員割れしていないのか。

事務局 資料によると、過去3年の受験倍率は約1.6倍から2.2倍程度である。ただし、理由はわからないが、在籍数は定員40人を下回って、32人から38人となっている。入学後、俳優や声優を育成することが目的ではないことから、なんらかの理由で退学したことも想像される。

〇〇委員 咲くやこの花高の場合、芸能活動は絶対に認めないということだった。

〇〇委員 咲くやこの花高の演劇科の入試では、実技試験はあるのか。

事務局 入試の方法は確認していない。

## (2) 改築基本構想案案について

事務局 改築基本構想案案の変更点について説明。

〇〇委員 「7 学科またはコースの新設の分野別検討」の中で、「コミュニケーション能力やプレゼン能力を育成することに主眼を置いたカリキュラムの工夫について検討すべき」と記載されているが、生徒が卒業後に社会人となり、会社などでディベートを行う際に、コミュニケーション能力、プレゼン能力は非常に必要となるが、この能力を育成することは一高に限ったものではなく、他の高校でも高校教育の目的として、必要だと思う。自分の考えを有効に表現できる能力というものは、社会に出たときに、重要なものだ。演劇や声楽なども、そういった能力を育成する有効な手段であると思うが、学科やコースの設置となると問題も多い。現在、実施している模擬裁判や総合の時間で行っているキャリア教育を発展させて、コミュニケーション能力を身に付けさせることが有益なことだと思う。

〇〇委員 学科またはコースの新設の分野別検討の中で、商業、工芸等の専門学科は他の高校にもある。また、スポーツ科も私学で盛んに行っていて、選手集めを公立で行うのは問題がある。また、書道を設置している高校は無いと思う。これらは除いて考えてもよいのではないか。

一高においては、学科、コースの新設を行わない方向で、このあたりを踏まえた検討でよいのではないか。

〇〇委員 アンケート調査では、「現行の学科・コースで良い」との回答が85%を占めており、まず、それを記載すべきである。ここには、唐突に演劇だけが記載されているが、ほかにも伝統や文化などもあり、コミュニケーション能力の育成は演劇に限ったものではない。キャリア教育の視点からまとめてもよいのではないか。

事務局 文章のつながりとして問題があるという意見を参考に修正したい。

〇〇委員 アンケート結果でもあるように、進学校という大きな幹は、さらに育ててもらいたい。普通科の進学校としての性格を、さらに高めていくことを前提として、特色を考えていく必要がある。グローバル化に対応できる人材育成にもっと力を入れるべきだ。英語力を中心に国際的感覚を身に付けさせることが重要だ。かつては、英語教育で文部科学省の指定を受けていたが、ああいう教育が、社会に貢献できる優秀な人材の輩出にもつながる。

事務局 スーパーセルハイの指定は終了しているものの、現在、国際文科コースにおいて、英語で授業を実施しているほか、招聘講師による指導、イギリス、アメリカ、台湾、シンガポールなどの高校生との交流や、海外研修、イギリスやオーストラリアでのホームステイなど、国際感覚の涵養に力を入れており、今後も継続することになると思う。

〇〇委員 今の一高に問題があるわけではなく、進学の実績も良くなっている。現在、普通科にある国際文科と特別理科の2コースを更に盛り上げていけばよいと思う。先進校視察で感じたことであるが、演劇には、多大な費用だけでなく、膨大な気力、労力を必要とする。コースとして設けることは、大変なことである。コースでなく別の方法で行ってはどうか。

〇〇委員 学科とコースの違いは何か。

事務局 学科は、別の定員となり、入試も別に行う。より専門な内容の授業を一定時間以上行う。一方、コースは学科に比べて小時間である。ただ、コースでも、美術であれば既存の教員で対応が可能だが、演劇となると、外部講師が必要であるほか、毎年希望生徒がいるとは限らない。

〇〇委員 学科では関係科目を20単位以上取得する必要があるが、コースには、その縛りがない。

〇〇委員 工芸高校の美術科と一高の美術専門コースとでは、美術の授業時間数が大きく違う。

〇〇委員 以前、一高に芸術専攻コースというのがあったが、昭和54年に音楽だけが学科として設置されたという経緯がある。

〇〇委員 コミュニティ能力は必要とされているものの、演劇の学科またはコースの新設は必要ないと思う。

〇〇委員 アンケート結果だけで言えば必要ないと思う。ただ、演劇が持っている様々な可能性は教育にとって有効であり、違う文化、考え方に触れることは大切である。学

校としては、大学での受入先がないことを心配していると思うが、情報として、何年かのうちに、東京芸大の中に、演劇を中心としたコースが新設されるという話もある。また、基礎教育として様々な授業の中に取り入れる方法もある。咲くやこの花高校は、珍しい学校とも言える。設備面にしても、あそこまでやるのは現実的に難しいと思う。ただ、四国学院大学には、咲くやこの花よりコンパクトな形だが、演劇の要素を備えた施設がある。また、来月、国際表現言語学会が開催される予定なので、興味のある人はぜひ参加されたい。

事務局 学科やコースではなく、総合の時間を利用して演劇に関する講演やワークショップを行えば、一部の生徒ではなく、一高に入ってきた全生徒が短い時間でも演劇を体験することは可能である。これが一高の特色にもなり得ると思う。

(3) その他について

事務局 次回の会議の開催予定を1月の21日とすることについて説明

閉会 (17:30)